

報告第4号

地域公共交通確保維持改善事業に関する二次評価について

九州運輸局より地域公共交通確保維持改善事業に関する二次評価について公表されたので下記のとおり報告します。

協議会名：	みやま市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地方運輸局等における 二次評価結果	評価の指標は、1便当たりの乗車人数。 自己評価については、目標未達だったものを詳細に分析することに加え、目標達成したもの（水上・本郷線、山川・瀬高線①、高田南部・西部線②）についても成功例として同様に分析されることに期待します。 目標を達成できなかった系統の周知、利用者ニーズの把握を行うとともに引き続き協議会が設定する今後の改善点が着実に推進されることにより持続可能な交通ネットワークが構築されることを期待します。

※地域公共交通確保維持改善事業に関する二次評価の九州運輸局ホームページ掲載内容は、次ページの別添2のとおりです。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況		
直方市地域公共交通会議	筑豊タクシー株式会社 直方タクシー有限公司 株式会社キングタクシー	植木線(直方駅～サンリブのおがた店～下町公民館)の運行	市のホームページ及び窓口に時刻表及び路線図を配架し、周知を行った。また、平成29年10月にスーパーを経由するルートへ路線の変更を実施した。	A	A	平成30年9月に地域公共交通網形成計画を策定し、トリガー制度を導入した。住民・事業者・市が効率的なルート、バス停の設置について利用状況を参考にし、それぞれに責任をもって協議を行う。	
直方市地域公共交通会議	MGタクシー株式会社 株式会社日の丸タクシー	感田線(直方駅～東和苑北～湯野原)の運行	市のホームページ及び窓口に時刻表及び路線図を配架し、周知を行った。また、地域に対して現状の利用状況を発信し、協議を行った。	A	A	平成30年9月に地域公共交通網形成計画を策定し、トリガー制度を導入した。住民・事業者・市が効率的なルート、バス停の設置について利用状況を参考にし、それぞれに責任をもって協議を行う。	
久留米市地域公共交通会議	久留米市地域公共交通会議	北野地域よりみちバス運行 A日程(月・水・金)20便 B日程(火・木・土)18便	利用状況や地域からの意見を基に事業計画の変更を実施(H30年4月改正)。また、利用者がより気軽に外出できるようにH30.8より定期券を販売。	A	B	ダイヤ改正後の日利用者は28.3人と増加傾向にある。今後は地域の意見・要望を反映した運行ルート・ダイヤの改善、幹線系統(路線バス)との連携を高める見直しを進める。また幹線系統の地域時刻表の配布等も併せて実施する。	評価の指標は、①一日当たりの利用者数、②幹線バスの利用者数、③利用満足度。利用者、地域住民の意見・要望を踏まえてH30.4より運行ルート等を見直し、H30.8より新たに定期券を販売するなど利便性向上に取り組みされていることを評価します。目標設定は人口減少、情報化社会、高齢化社会における福祉の動きなど時代変化があることを踏まえながら地域の状況に応じた評価項目の設定、幅のある設定を検討ください。
久留米市地域公共交通会議	久留米市地域公共交通会議	城島地域よりみちバス運行 A日程(月・水・土)18便 B日程(火・木・金)19便	利用状況や地域からの意見を基に事業計画の変更を実施(H30年3月改正)。また、利用者がより気軽に外出できるようにH30.8より定期券を販売。	A	B	ダイヤ改正後の日利用者は20.1人と増加傾向にある。今後は地域の意見・要望を反映した運行ルート・ダイヤの改善を行うと共に、イベントに合わせた臨時運行等で運行のアピールを行う。また幹線系統の地域時刻表の配布等も併せて実施する。	評価の指標は、人口減少、情報化社会、高齢化社会における福祉の動きなど時代変化があることを踏まえながら地域の状況に応じた評価項目の設定、幅のある設定を検討ください。引き続き地域公共交通会議が設定する今後の改善点が着実に推進されることにより持続可能な交通ネットワークが構築されることを期待します。
中間市地域公共交通会議	ひかり第一交通株式会社 産業タクシー株式会社	太賀・朝霧系統	アンケート調査の結果を基に座談会を開催し、住民ニーズの把握に努め、効率的な運行となるよう計画の見直しに取り組んだ。また、平成29年10月に、商業施設敷地内に停留所を新設した。	A	B	運行開始から3年が経過していることから、ダイヤ改正やルート改正などの運行方法の見直しを検討する。	評価の指標は、利用者数及び収支率。平成29年度に実施したアンケート調査の結果に基づき、住民座談会を実施するなど住民ニーズの把握に努められていることを評価します。目標設定は人口減少、情報化社会、高齢化社会における福祉の動きなど時代変化があることを踏まえながら地域の状況に応じた評価項目の設定、幅のある設定を検討ください。
中間市地域公共交通会議	有限会社ことぶきタクシー	通谷・桜台系統	アンケート調査の結果を基に座談会を開催し、住民ニーズの把握に努め、効率的な運行となるよう計画の見直しに取り組んだ。また、平成29年10月に、商業施設敷地内に停留所を新設した。	A	B	運行開始から3年が経過していることから、ダイヤ改正やルート改正などの運行方法の見直しを検討する。	目標設定は人口減少、情報化社会、高齢化社会における福祉の動きなど時代変化があることを踏まえながら地域の状況に応じた評価項目の設定、幅のある設定を検討ください。
中間市地域公共交通会議	有限会社ことぶきタクシー	垣生・下大隈系統	底井野校区全世帯を対象にアンケート調査を実施し、効率的な運送サービスが提供できるように住民ニーズの把握を行った。また、平成29年10月に、商業施設敷地内に停留所を新設した。	A	C	アンケート調査の結果を基に座談会を開催し、住民ニーズの把握に努め、効率的な運行となるよう計画の見直しに取り組む。	目標を達成できなかった系統の要因を分析するとともに引き続き地域公共交通会議が設定する今後の改善点が着実に推進されることにより持続可能な交通ネットワークが構築されることを期待します。
中間市地域公共交通会議	ひかり第一交通株式会社	砂山・底井野系統	底井野校区全世帯を対象にアンケート調査を実施し、効率的な運送サービスが提供できるように住民ニーズの把握を行った。また、平成29年10月に、商業施設敷地内に停留所を新設した。	A	C	アンケート調査の結果を基に座談会を開催し、住民ニーズの把握に努め、効率的な運行となるよう計画の見直しに取り組む。	
みやま市地域公共交通活性化協議会	みやま市水上・本郷線	瀬高町の水上～清水～上庄～本郷地域を運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A	A	現在の利用状況を維持できるように引き続きコミュニティバス運行に関する周知や広報に取り組み利用促進に努める。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果 達成状況		
みやま市地域公共交通活性化協議会	みやま市 清水・上庄線	瀬高町の清水～水上～本郷～上庄地域を運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A	B	旧福祉バスと利用者数はあまり変わらないが、毎日運行となり便数が増えたため、便あたりの利用者数が目標より少なかった。福祉バスのイメージが強く高齢者以外の利用が伸びなかったと考えられる。新たな利用者を開拓するため、今後も更なるコミュニティバス運行に関する周知や広報に取り組み利用促進に努める。なお、水上・本郷線に引き続き同じ車両が、運行しており、水上・上庄線で乗車して、清水・上庄線での降車が多い。	評価の指標は、1便当たりの乗車人数。 自己評価については、目標未達だったものを詳細に分析することに加え、目標達成したもの(水上・本郷線、山川・瀬高線①、高田南部・西部線②)についても成功例として同様に分析されることに期待します。 目標を達成できなかった系統の周知、利用者ニーズの把握を行うとともに引き続き協議会が設定する今後の改善点が着実に推進されることにより持続可能な交通ネットワークが構築されることを期待します。
みやま市地域公共交通活性化協議会	みやま市 瀬高・高田線 (①)	瀬高町～高田町を太神・岩田地域を経由して運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A	B	福祉バスのイメージが強く高齢者以外の利用が伸びなかった。新たな利用者を開拓するため、今後も更なるコミュニティバス運行に関する周知や広報に取り組み利用促進に努める。	
みやま市地域公共交通活性化協議会	みやま市 瀬高・高田線 (太神・岩田經由 ②)	瀬高町～高田町を太神・岩田地域を経由して運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A	B	福祉バスのイメージが強く高齢者以外の利用が伸びなかった。新たな利用者を開拓するため、今後も更なるコミュニティバス運行に関する周知や広報に取り組み利用促進に努める。	
みやま市地域公共交通活性化協議会	みやま市 高田・瀬高線 (江浦・浜田・大江 經由)	高田町～瀬高町を江浦・浜田・大江地域を経由して運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A	B	旧福祉バスと比較すると利用者数は増えているが、福祉バスのイメージが強く高齢者以外の利用が伸びなかった。新たな利用者を開拓するため、今後も更なるコミュニティバス運行に関する周知や広報に取り組み利用促進に努める。	
みやま市地域公共交通活性化協議会	みやま市 高田・瀬高線 (国道209号經由)	高田町～瀬高町を国道209号を経由して運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A	B	旧福祉バスで隔日運行だった他の系統が毎日運行となったため、利用者が他の系統を利用するようになったと考えられる。沿線高齢者人口も多く、利便性の高い路線であるため、新たな利用者を開拓するため、今後も更なるコミュニティバス運行に関する周知や広報に取り組み利用促進に努める。	
みやま市地域公共交通活性化協議会	みやま市 高田・瀬高線 (国道209号經由)	新船小屋からJR瀬高駅間を運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A	C	新船小屋からJR瀬高駅間の4.5kmを山川・瀬高線③の最終便への接続のため運行している。そのため、利用者は限られている。JR瀬高駅までの利用や山川町から老人ホーム楠寿園へ訪問される方の帰宅のための利用ニーズがある。	
みやま市地域公共交通活性化協議会	みやま市 山川・瀬高線①	山川町の真弓公民館～瀬高町の市立図書館を国道443号を経由して運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A	A	車で20分の距離を40分から60分以上かかる便もあるため、時間短縮のため利用状況の把握及び分析を行い利用しやすい運行を目指す。	
みやま市地域公共交通活性化協議会	みやま市 山川・瀬高線②	山川町の市役所山川支所～瀬高町の市立図書館を国道443号を経由して運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A	C	夕方の帰宅者向けの運行をしており、定期的な利用者があるが、利用が限られている。運行範囲を絞り快速的な運行をしているが、山川・瀬高線①と停車するバス停が違うため分りにくく利用し難い可能性がある。利用状況の把握及び分析を行い利用しやすい運行を目指す。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果 達成状況		
みやま市地域公共交通活性化協議会	みやま市 山川・瀬高線③	瀬高町のJR瀬高駅～山川町の真弓公民館を国道443号を經由して運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A	C	JR瀬高駅からの山川方面への帰宅者向けの運行をしているが、利用者が少ない。山川・瀬高線②と同様に運行範囲を絞り快速的な運行をしているが、同様に山川・瀬高線①と停車するバス停が遠いため分りにくく利用し難い可能性がある。利用状況の把握及び分析を行い利用しやすい運行を目指す。	
みやま市地域公共交通活性化協議会	みやま市 高田南部・西部線①	高田町の南部及び西部地域をあたご苑から市役所高田支所を經由して運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A	B	僅かに目標に届かなかったが、利用が増えている。引き続きコミュニティバス運行に関する周知や広報に取り組み利用促進に努め目標達成を目指す。	
みやま市地域公共交通活性化協議会	みやま市 高田南部・西部線②	高田町の南部及び西部地域をヨコクラ病院前から市役所高田支所を經由しJR渡瀬駅まで運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A	A	現在の利用状況を維持できるよう引き続きコミュニティバス運行に関する周知や広報に取り組み利用促進に努める。	
みやま市地域公共交通活性化協議会	みやま市 山川・高田線 (亀谷・竹飯經由)	山川町～高田町を亀谷・竹飯地域を經由して運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A	B	旧福祉バスと比較すると利用者数は増えているが、毎日運行となり便数が増えたため、便あたりの利用者数は目標より少なかった。沿線の高齢者人口は少ないが、H29年の調査で利用者の多くの利用頻度は、毎週利用となっており、ニーズがあるため、今後も更なるコミュニティバス運行に関する周知や広報に取り組み利用促進に努める。	
みやま市地域公共交通活性化協議会	みやま市 山川・高田線 (田浦・田尻經由)	山川町～高田町を田浦・田尻地域を經由して運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A	C	沿線の高齢者人口が比較的少なくH29年の調査でも利用者の多くの利用頻度が低かった。旧福祉バスと利用者数はあまり変わらないが、毎日運行となり便数が増えたため、便あたりの利用者数が目標より少なかった。今後も利用状況の把握及び分析を行い利用しやすい運行を目指す。また、引き続きコミュニティバス運行に関する周知や広報に取り組み利用促進に努める。	
宮若市地域公共交通会議	有限会社松川タクシー MGタクシー株式会社	宮田・小竹線	平成29年10月より運行開始	A	C	目標値を大きく下回ってはいるものの、利用者数・収支率は増加傾向にある。本路線周辺地域に対し、さらなる周知を行うことにより、新規利用者の増加を図る。	評価の指標は、年間利用者数。目標値を大きく下回っていることから、さらなる周知を行うとともに、今後の改善点による利用者ニーズの把握に努めることにより、持続可能な交通ネットワークが構築されることを期待します。